

令和 7 年度 職員アンケートの結果

以下の内容について、職員の回答をまとめましたので、ご報告します。

① 行事について

- ・ 保育参加・誕生会での親子の別れ際に子どもが大泣きする場面が辛く、大人目線ではなく子ども目線での配慮が必要と感じた
 - ・ 行事は少しでも減らしたいが、どれも大切で難しいと感じている
 - ・ 親子遠足は 4 月に全クラス合同で行うのが望ましい。誕生日の保護者参加は年長のみでも良いのでは、という意見あり
 - ・ 行事の簡素化は進んでいると思うが、保育者の負担にならないことが前提
 - ・ 運動会で 0 歳クラスを平日開催にしたことはよかったが、きょうだいのいる保護者が 2 回参加になる点が気になった
 - ・ 大きな行事に向けて担任間で数か月前から準備し、成し遂げた達成感は大い
 - ・ おゆうぎ会では子どもが主体となり、のびのびとした表情が多く見られてよかった
 - ・ 行事の当日は担任間・職員会議での事前準備のおかげでスムーズに進行できた
 - ・ 行事を通じて各年齢の成長を保護者と共有できる良い機会。保護者向け講演会なども提案あり
 - ・ 保護者参加により子どもと楽しむ姿が見られ、様々な意見も聞けて良いと思う
 - ・ 行事はどれも子どもや保護者のことを考えて工夫・配慮されていると感じる
 - ・ ほし組のみのクラス運動会は伸び伸びと、普段と変わらない表情で行えてよかった
 - ・ 日頃関わっていない子の行事対応について、自分の対応が適切だったか振り返りが必要
-

② 不適当な言葉使いや保育について

- ・ 不適切な言葉は園だけでなく、家庭も含めて一緒に学ぶことが大切
- ・ できるだけ相手に伝わる言葉を使うよう日頃から意識している
- ・ クラス担任間で気づいたことを言い合える関係性の構築が重要
- ・ 自分自身も無意識に使っている可能性があるため、その場で指摘してほしい
- ・ 日々の保育が忙しいと、言葉使いや言い方がきつくなりがち
- ・ 話し合える職場環境ができると良いと感じる
- ・ 不適切な言葉は書面ではなく、直接言い合える関係性の構築が大切
- ・ それぞれ認識が異なるため、一場面だけでなく前後の文脈も踏まえて判断

することが重要

- 主体性を尊重するよう意識しているが、気になる場面で注意を受けた経験もある
- 散歩中の対応(座り込んだ子を立たせる際の脇抱えなど)が外から不適切に見えないか不安に感じた
- 子どもを部屋から出す対応は時代にそぐわず、虐待に当たるとの指摘あり
- 価値観が異なるため、不適切と気づかずに使っている場合もある。書面より口頭で直接伝えてほしい
- 見かけても関係性が崩れることへの恐れから、直接指摘しにくい場面がある
- 肯定的な言葉がけを意識し、子どもの主体性・自己肯定感を育む対応を心がけている
- 子どもの立場に立ち、やわらかい表現・個性を認めた関わりを意識している
- 職員間で気づいたときに伝え合える関係・雰囲気づくりが大切

③ 保護者が当保育園を選び、生き残れる保育園を目指す工夫があれば

- 子どもが楽しそうに過ごしているかを保護者は見ている。親の都合だけでなく子ども目線が重要
- 子どもが「明日も楽しいことが待っている」と思えるような保育を行う
- 日々の保育を充実させ、子どもたちの笑顔をたくさん見せる
- 子どもへの悩みを一緒に考えてくれる園であること
- 元気に笑顔であいさつし、子どもや保護者に寄り添った保育を行う
- 安心・安全で楽しい保育を実践し、保護者に信頼される園を目指す
- 職員が保育園を好き・楽しいと感じながら働けることが大切
- 地域の小中学生などのボランティア体験を受け入れ、園の認知度を上げる
- 子どもの成長(年齢相応の発達)を保護者と共通理解しながら関われる園づくり、及び職員の定着
- 保育園の強みをホームページで積極的に発信する
- それぞれの子どもの良さを褒めて伸ばし、登園が楽しいと感じる保育内容を増やす
- 子どものやりたいことを満足にさせてあげられる園
- 保育方針が明確で一貫性があり、情報共有の透明性(Web サイト等)を積極的に高める
- 子どもが主体(笑顔)なのか、保護者ニーズなのかを整理して方向性を打ち出すことが必要

④ 噛みつきが多いお子さんや気になるお子さんの支援や対応について

- 自分の子が噛む側と知らされるのが遅い場合、保護者は辛い思いをする。早期に親へ寄り添って一緒に悩む姿勢が大切
- 噛みつきの行動を予測して止める。気持ちに寄り添う対応を行う
- 噛みつきの多い子はできるだけ近くで様子を見守る

- ・ 保護者と面談を行い、共通理解を図ることが必要
- ・ 家庭環境が背景にある場合も多く、保護者が子どもを理解できていないと感じる場面もある
- ・ 職員間で声を掛け合い、見守りを強化する
- ・ 言葉の選び方や伝え方はチームで考え、思いつきで保護者に伝えない
- ・ 噛みつきは室内の環境や職員・子どもの状況(ざわつき等)が影響するため、環境の見直しが重要
- ・ 噛みつきに至った気持ちを汲み取り、原因への共感と、相手への影響を穏やかに伝える
- ・ 噛みつかれた側・噛みついた側、両方の保護者にきちんと説明することが信頼につながる
- ・ 噛みつきそうな場面では大声を出さず、その都度抱きしめる対応が大切
- ・ 歯が生える時期のムズムズによる噛みつきは、噛むおもちゃや野菜スティックで代替対応
- ・ 保育者が工夫して対応していることを保護者にどう伝えるか(信頼・理解の醸成)が課題
- ・ 噛みつきは保育園だけでは解決できない。保護者との個人面談などで一緒に取り組む必要がある
- ・ 室内遊びより、外遊びを多く取り入れてストレスを発散させることも有効
- ・ 子どもの様子を職員間で共有し、全体で見守る体制を整える
- ・ 保護者から子どもの家庭での様子を聞き、話し合うことが支援につながる

⑤ 子どもの最善の利益とは

- ・ 「最善の利益」とは何かを大人が決めるものではなく、一人ひとりに違うものである
- ・ 個々の子どもにとって一番良いことを考えること(みんな同じではない)
- ・ 心身の健やかな成長、安心・安全・幸福が基本
- ・ 「皆違って皆いい」。一人ひとりに平等に接することが大切(難しくもある)
- ・ 子どもにとって楽しく、安心できる居場所・環境を提供すること
- ・ 気持ちを受け入れ、安心できる環境づくり
- ・ 子どもたちが安全に日常生活を送り、多くの経験を積めること
- ・ 家庭と連携しながら、安心して過ごせる保育を心がける
- ・ 目の前の子どもの心の安定を図り、成長・発達を援助・促すこと
- ・ 「してあげるべき」ではなく「この子にとって今何が一番良いか」を深く考えること
- ・ 発達段階に応じた適切な支援を行うこと
- ・ 子どもの興味・関心に応じた保育を提供し、発達段階に合わせた関わりを深める
- ・ 子どもにとって最もよいこと(幸福・安全・健やかな成長)を最優先に考え、安心して食べ・遊び・学べる環境
- ・ 大人の都合で決めず、子どものやりたいことを満たすこと

- ・ 子どもの思いや意見を尊重し、特性に合わせた支援を行い、社会全体で子どもを支える視点を持つ
- ・ 今この瞬間の子どもの思いを満ち、達成感を味わわせ、人との衝突も含めた経験が将来につながる
- ・ 子どものやってみたい気持ちを受け止め、その子に最善の選択をしていく

⑥ その他(日々の休憩時間・親睦会等の提案)

- ・ やるべきこと(ヒヤリハット・事故報告書など)の多さにより、休憩が取れる日と取れない日のばらつきがある
- ・ 休憩時間はクラス間で声を掛け合って確保できるようにしたい
- ・ 親睦会より休憩時間の確保を優先してほしい
- ・ お茶会のような交流ができてよかった。また実施したい
- ・ 休憩はクラス内で声を掛け合って、少しでも取れると良い
- ・ フルタイム職員は休憩がほぼ取れないのが現状。書類記入時間(会議室など)の確保が必要
- ・ フリーとしてクラスに入れない場合があり、休憩が取りにくい。親睦会は勤務時間内であれば可能
- ・ 時間差で数名ずつ休憩を取れる仕組みがあるとよい
- ・ 午睡後・書類がひと段落したら 30 分でもコーヒータイトムが取れるとよい
- ・ 休憩はクラスで交代制にするか、代わりの職員がいれば取れる仕組みに
- ・ 休憩時間を確保してほしい。体力が持たない
- ・ 日を決めてローテーションで休憩を取るなどの仕組みが必要
- ・ 親睦会は職員間の信頼関係を深めるために有効
- ・ 年 1 回でも午前・午後のパートも含めた全員参加の懇親会ができるとよい
- ・ 親睦会は勤務外では難しい。個人的に苦手という意見もある

【 総 括 】

職員一人ひとりが子どもの最善の利益を真剣に考え、保育の質向上に向けた意欲が伝わるアンケート結果となりました。行事については概ね前向きな評価をいただく一方、職員の負担軽減については、保護者との対応が苦手な保育士は無理な事をさせないように配慮しています。不適切な言葉がけや保育については、職員間で気づきを伝え合える関係性の構築と、さらなる研修で理解を深め、こどもの人権を学んでいきたいと思ひます。噛みつき対応は以前からの課題で、発生時間、回数、噛む子、噛まれる子を分析し、ヒヤリハットの段階で予測し、事故防止できるよう努力しております。休憩時間の確保については、皆さんの声を真摯に受け止め、具体的な改善策を検討しております。引き続き職員が笑顔で働ける園づくりを目指してまいります。